ケアネットグループホームすざか

（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を掲げ、入居者が笑顔で安心して暮らせるよう毎月の会議の中で話し合いをしている。毎日の引継ぎでも職員と確認をし理念を共有している。	職員の話し合いで作られた理念、「『寄り添う介護』『優しい介護』を目標に、私たちは毎日ご利用者様に接します」が法人理念とともに居間に掲げられている。職員会、朝・夕の申し送りの時に理念にふれている。長年勤務の職員も多く、理念は浸透しており利用者の心に寄り添うケアが実践されている。家族会の時にも理念を伝え周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物や行事の情報を回覧版で得ている。子供神輿を招いたり、敬老会で子供達と交流を図っている。ボランティアが訪問して楽器の演奏や歌を楽しんでいる。	お祭りの時、小学生50名余りが神輿を披露し今年は利用者への歌のプレゼントもしていただいた。今年度、敬老会で初めて幼稚園児との交流が行われた。歌やダンス、手遊びなど、利用者と園児が共に楽しむ時間が持たれた。女子短大生の実習受け入れ、歌やダンスのボランティアの来訪もある。地域文化祭には毎年出品し見学にも出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会や勉強会、実習生の受け入れをしている。申込みに来られた方には施設の見学をしてもらったり、ご家族の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。入居者の状況や行事の報告をしている。年に2回の昼食会を行い、施設の状況を見ていただいたり、感想や助言を頂きサービス向上に活かしている。	家族、区長、民生委員、市職員または地域包括センター職員(交代)が委員となり、奇数月の最終金曜日に開催し、事業報告、行事や入居者状況の報告を行っている。3月と9月の会議終了後は利用者と一緒に昼食をとりホームへの理解を深めていただいている。出席者から「災害時の施設に対しての行政の対応の仕方」や「防災無線に関する事項」などの質問があり意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の訪問を受け、入居者の言葉や施設の様子をみて感想を頂いている。運営推進委員のメンバーに市包括センター担当者が含まれていたり、施設で何かあったり入居者に関する事を相談している。	年1回開催される地域密着型事業所の3地区(須坂・小布施・高山)合同の集団指導会議に参加している。介護相談員2名の訪問があり(5・11月)、利用者にとっては適度な緊張もあり心地よい刺激となっている。市開催の研修にも職員が積極的に参加している。介護保険認定更新の申請は家族よりの依頼で代行申請し利用者の状況を正しく伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを読んで勉強会をしている。身体拘束をしないケアに心がけている。ベッドで危険な場合はマットレスを使わせてもらう事をご家族に理解していただき対応をしている。	玄関の施錠はされておらず、テラスへの移動も自由にできる。職員は研修等で身体拘束による弊害を理解している。家族の了承を得て、夜だけトイレ介助のためセンサーを使用する方が若干名いる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を設けている。職員は日頃から言葉使いや行動に気をつけお互いに意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加できる機会がなくしっかりと理解できているかわからない。勉強する機会をもって学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時居室で内容の説明をして、ゆっくり話が出来るようにしている。重要事項の説明や入院時や解約の説明もしている。質問や不明な点はご家族から聞いている。介護報酬改正の時など直接ご家族に説明をして署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見、要望のポストを設置している。他に契約時に相談窓口の説明もしている。家族が面会に来られた時や、運営推進会議に来所した時職員や管理者と話す機会を持っている。介護相談員の訪問で一人一人の話を聞くことが出来る。	毎年家族会を新年初めに開催している。全家族が揃い家族とホームの話し合いの場を持ち、その後利用者、家族、職員が手作りの食事をとりながら歓談している。家族の訪問は平均すると1ヶ月に1回はあり、訪問時には管理者、職員が利用者の近況を報告し家族の意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員の会議に、センター会議で運営に関して話した事を説明したり意見を聞いている。スタッフの会議では、お茶を飲みながら気軽に意見を言えるようにしている。	基本的に全員参加で毎月1回定例会を開催している。2時間を目安に進行役と記録係を持ち廻りで交代し、連絡事項やモニタリング、ケアプランに関する話し合いが行われ、活発に意見が交換されている。今年度の職員目標が「職員のスキルアップ」であり資格取得や研修参加が積極的に行われている。年2回管理者による個人面談があり目標の設定と評価がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得によってスキルアップしそれを人事で考慮している。研修会に参加できるようにシフトを考えたり、半年毎に自己評価を行いそれに基づいてセンター長が評価をしている。希望休みを取ってリフレッシュできるような体制が取れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外での研修会に積極的に参加している。研修会に参加した人は会議の時に他の職員に報告し共有している。新しく入社した職員には一人付き丁寧に指導をして理解できるようにしている。また接遇の研修会も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域のグループホームとのネットワークがあり、二ヶ月に一回会合で情報を交換したり、勉強会も同時に行っている。職員も参加して他の介護員と交流できるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設を見ていただき、家庭での様子を本人、家族から聞くようにしている。ゆっくりとした時間の中で本人と話をして信頼関係ができるように努めている。事前のアセスメントを職員全員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞き、家族の望む事、本人の思いや希望を知って支援を考える。家族にも協力して頂きたいことをお話したり相談も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの相談に来られた時、待機者の人数を知らせたり、他のサービスの情報を提供したり、近隣のグループホームの紹介をしている。入居までの相談に応じるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でご家族と一緒でなくても、楽しみや悲しみを共有している。共に過ごす事の大事さを感じ、明るく楽しく過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできないことを家族に理解してもらい、それ以外の事は職員が支援するようにしている。面会に来られた時は日々の様子を話し、変化があった時はご家族に相談して一緒に考えてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出かける事が出来なくなってきている方にも友人や知人の面会が出来るようにしている。馴染みの場所や知人の話をしている。	家族会等でお正月やお盆の帰宅を働き掛けている。日帰りで、家でお正月を祝う方、外食をして来る方もいる。理美容は家族からホームに任されているので外部の美容師が来訪し整髪しており、顔馴染みともなり、「あんまり短かくしないで」、「女の美容師はヤダな」などと自由に言いながらも出来上がりに満足しているという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や会話を大切にし、トラブルが起きそうな時は職員が間に入るなど配慮している。また入居者同士が関わりを持てるように職員で話し合いをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、ご家族に様子を聴いたりしている。必要あれば、相談を受け他のサービスを紹介したりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の思いを聞き、出来るだけ希望に沿うように努めている。意思疎通が難しくなった方もご家族から情報を聞いたり、それまでの関わりの中で意向を検討し支援を行っている。	ほとんどの方が自分の意向を伝えられる。家族が訪問する日は朝から穏やかな表情が見られ職員も自然と嬉しくなるという。夕方や暗くなった時に「帰りたい」との言葉を聞いたり、夜誰もいない時職員に「どうしたら帰れるのか」と呟く利用者もおり、利用者の心に寄り添えるように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談を行ったり、日々の生活や会話の中から情報を集めている。以前利用していたサービス事業所に聞いたりした情報をファイルにまとめ皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し変えないように心がけている。本人の言った言葉や行動を記録したり、身体状況を観察している。本人の出来るところは職員がそれぞれ把握し、同じ介護が出来るよう情報を共有して活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人、家族から意向を聞き、担当者と相談して作成している。作成後は職員と会議で検討して意見を出して再作成している。それぞれの担当者が毎月の評価をし、3か月ごとに短期目標の見直し、確認をしている。	利用者の担当制をとっている。 担当職員が毎月評価を行い、定例会で短期目標等に関係する意見を出してもらい3ヶ月毎の見直しを管理者と担当職員で行っている。利用者の希望は口頭で聞きプランに反映させている。家族へは来訪時に説明し署名も頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をｹｰｽ記録に個別に記録をしている。朝、夕の申し送りで前日の様子や、気づきを伝えている。毎月のケア会議等で全員で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。バイタル、排泄、薬、入浴の記録を職員で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の様子や、本人の希望で散歩や買い物に出かけている。遠方のご家族や緊急時は職員が受診や薬の受け取りを行っている。看取りを希望されているご家族もいるので、病院と連携を取ったり、看取りの研修会に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生、ボランティアの受け入れをしている。お花見や菊花展など季節毎に外出している。地域の文化祭に出品、見学に行っている。そば打ちなどで実演をみて交流できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診をしてもらっている。病状の変化はご家族に伝え主治医に連絡して対応している。急な時は施設のかかりつけ医が毎週往診に来られているので相談できるようになっている。	殆どの方が利用前からのかかりつけ医を継続している。予防接種はホーム協力医で受けている。市のレントゲン撮影はホームで職員が付き添って行われている。併設のショートステイに協力医が毎週往診で来訪されるので緊急の時はお願いできるようになっている。受診の付き添いは家族にお願いしているが職員が付き添うこともある。家族への報告は管理者とし窓口を一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や様子観察を行っているが、変化があれば隣接しているショートステイの看護師に相談し助言をもらったり、診てもらっている。場合によっては受診をする事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった時はご家族に相談して病院を決めてもらう。本人の必要な情報を医療連携室と連携している。入院中も早期退院できるように連絡を取りながら支援している。入院中の様子を見に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した時、本人、家族に意向を聞いている。終末期のあり方については、状況を見ながら主治医の指示を聞いて、本人や家族が安心してホームで過ごせるように、話し合いをしながら支援をしている。職員も情報を共有して支援している。	契約時に重度化、看取りについて出来ること、出来ないことの説明をしている。看取り研修も行われ終末期、重度化の対応に向けて話し合いが行われている。今年、病院に入院していた利用者の希望でホームに戻り終末期を過ごしていたが、再び容体が悪化し入院後、翌日、亡くなられた方がいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあり施設内で学習したり、資格のある職員に心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの実技を勉強する機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定して施設全体の避難訓練や連絡網を使って伝達訓練をしている。地域の防災訓練にも参加している。非常食や飲料水の備蓄をしている。	年2回訓練が行われている。消防署へ計画書を提出し実施されている。昨年11月には地震想定で行われた。5月の訓練はショートステイと合同で行い、同時に職員間の伝達訓練も行った。3月初め、長野市一帯で起きた早朝の停電時には職員の機転でカセットコンロを使い朝食を作り日頃の訓練が活かされた。今後、消防団に参加していただき「水害想定訓練」を行いたいとの意向がある。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けを心がけている。特に言葉遣いは、会議で毎回確認したり職員同士注意しあうようにしている。排泄や入浴も本人のプライバシーが保てるように一人一人の対応をしたり、各居室で対応している。	食事や入浴時には職員が必要に応じて声掛けしながら支援しているが、その時々に利用者自身が決めた生活時間で行動することもある。声を掛けるが無理強いすることなく利用者の意思を尊重している。男性職員の介助を嫌がる利用者には女性が介助している。呼び名は「名字」にさん付けで呼んでいるが同姓がいる時は利用者に名前で呼んでいいかを確認し「名前」にさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の体調、ペースに合わせて声掛けをし、やりたい事や食べたいものなど選んでもらうようにしています。買い物や外出など日常的に出来る場面も自己決定できるよに声をかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように一人一人の生活リズムを大切にしている。お手伝いして下さる方には出来ることを見つけてお願いする。テラスに出たり、散歩に行ったり本人のしたいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや、季節にあったおしゃれが出来るように支援している。身だしなみはその都度声掛けをして、本人に着てもらうが職員が選ぶこともある。二か月に一回ホームで散髪が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を献立にいれたり、下ごしらえ、準備を一緒に行っている。片付けも出来る人にはやってもらっている。季節のフルーツを食べたり、外食を楽しんでいる。一人一人に合わせ、お粥やミキサー食、トロミをつけたりしている。	3ヶ所のテーブルに別れ職員と一緒に食べている。食べ物の形態を少し変えるぐらいでほぼ全員が自力で食べられる。献立は管理栄養士の助言や利用者の希望も入れながら職員が作成している。夏のテラスでの「流しそうめん」、春と秋の職人手作りの「うどん」・「そば」、敬老会の「お寿司」が恒例となっている。昨年秋には庭の渋柿が沢山取れ利用者と一緒に干し柿を作ったという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた食事形態や量を考慮して、毎回野菜を多く摂るようして管理栄養士に献立を診てもらい栄養の偏りがないようにしている。その日の体調を見ながら食事量や水分量を確認チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の身体状況に合わせて、声掛けや介助を行っている。入居者によって夜間義歯洗浄をしている。歯ブラシ出来ない人は職員がブラッシングを行ったり、口腔内の状態把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあるので、個人の排泄のリズムを把握して、出来るだけトイレで排泄できるようにしている。排泄用品も本人に合った物を使用している。自立している方もいるが、時々汚れていないか確認をしている。	各居室にトイレが付いている。居間にもトイレがあるが原則居室のトイレを使用している。自立の方、声掛けでトイレへ誘導する方など、利用者に合わせて個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時から水分摂取に気をつけ、一日の水分が不足しないようにしている。個人個人の排便を職員が把握できるようにしている。薬の必要がある方は医師に相談している。乳製品の摂取、食事の内容を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日おきにできるようにしており、入居者の体調や希望に合わせている。シャワー浴は状況に応じて支援している。一人づつゆっくり入れるように湯船につかってもらっている。入浴を嫌がる方には無理せずタイミングを見て声を掛けている。	広い浴室に大きな浴槽が据え付けられている。脱衣場は床暖で浴室の壁上部にが暖房器具が備え付けられている。浴槽にお湯を満タンに張って、2日に1回、全員の入浴日としている。安心と安全を考え1人ずつの入浴としている。目先を変えバラ、ゆず等、時季に合わせたお風呂も行っている。入浴を嫌がる方は今のところいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて休息している。出来るだけ日中は活動を促し、疲労感を得てゆっくり眠れるようにしている。寝具も個々に合わせて対応しその方の睡眠ペースで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書で個人の薬を把握して、職員全員が分かるようにしている。服薬のミスがないように二重チェックで確認している。処方が変わったり、症状の変化などは記録に残し、職員同士の情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ってお手伝いをしてもらっている。洗濯物を皆さん一緒に干してもらったり、新聞や広告を折ったりする事がその人の役割になっていて、感謝の言葉を添えている。個々の好きな事を探しやっていただくように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、テラスに出たり、散歩をしている。買い物に一緒に行きませんかと声をかけ出かけ、好きなものを選んでもらっている。外出したい場所を聞いたり、地域の行事に出かけたりしている。	お天気がいい時は近くのグランドまで歩いている。年間の外出も多く、春はお花見、菜の花公園、バラ公園、秋は菊花展等へ出かけている。地区の文化祭へ出かけることもある。今年開催された善光寺御開帳には2回に分けてお参りをした。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は施設で預かっている。「お金がない」と言う時は金庫に預かっていると伝えると安心している。本人が何か欲しい物があれば、一緒に買い物に行ってる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言う方には、連絡を取って直接家族と話が出来るように支援している。年賀状が来れば本人に手渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンとホールが一緒になっていて、食事を作る様子を見れたり、手伝ってもらったりしている。テラスがあり日光浴ができたり、畑があり野菜を作ったり、季節の花が見える。大きなガラス戸から日が差し込み明るくなっている。ホールは床暖房で椅子の生活でも暖かい。ホールに共用トイレもある。	居間には外出した時のスナップ写真や敬老会で幼稚園児と一緒に楽しそうに遊んでいるスナップ写真が飾られている。毎年区の文化祭に出展した作品も飾られている。手作りのお面は賞があるなら特賞かと思うほどの素晴らしいものだった。ソファーや畳の部屋もあり自由に過ごすことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にテラスへ出られ、そこで談笑したり、ソファーやリクライニングに座って会話をしてり、テレビを観たりできる。和室にはマッサージチェアーがあり、誰でも気軽に使えるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで撮った行事の写真が飾ってあったり、家族が持って来られた花など飾ってある。テーブル、椅子、ベッドは備え付けになっていて本人の使いやすいように配置してある。	居室にはトイレ、洗面台、ベッド、テーブル、リクライニング椅子、テレビが備え付けられている。家から可愛がっていたぬいぐるみや自分の布団、衣装ケース等を持ち込まれている利用者もおり、洋服等が整理整頓された清潔な居室がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、廊下、トイレ等に手すりが設置してある。車椅子の方も居室でゆっくり排泄が出来る。居室の入口には名前と花を飾ってある。		